

## コインに込められた想い

今回はお金の話です。クレジット社会のアメリカでは、大抵のものがクレジットカードで買えますし、チップなどのために現金を持っていても1ドル紙幣が主役かもしれません。しかし、意外と身近なところでコインが必要な場合も少なからずあります。私にとっては、コインランドリー、そしてパーキングメーターです。

まず、コインの種類ですが、アメリカでは主に4種類のコインが普及しています。最も使用頻度が高いのは**25セント硬貨**。1ドルの4分の1の額で「クォーター」と呼ばれ、サイズは100円玉くらいです。**1セント硬貨**は「ペニー」と呼ばれ、1円玉より小さいのですが唯一茶色なので、財布に入っているだけでも簡単に見つかります。この1セント硬貨と同サイズで銀色のものが「**ダイム**」と呼ばれる**10セント硬貨**です。ところが、この「ダイム」より大きく、かつ「クォーター」に似ているのが**5セント硬貨**「**ニッケル**」。なぜこんなに紛らわしいサイズなのかと、今でもレジで戸惑うほど私が手を焼いているコインです。

冒頭に述べたコインランドリーの場合、うちの近所ではサイズに応じて1ドル50セント（クォーター6枚）～3ドル25セント（クォーター13枚）の価格帯で、クォーターしか機械が受け付けてくれません。またオフィス近くのパーキングメーターは、安い場所で25セント/30分なので、9時間駐車すれば1日あたり18枚も消費します。コインを毎日20枚近く持ち歩く、というのは日本ではあまり経験したことがなかったので、不便じゃないのかなあと思うのですが、このクォーターにはちょっとした楽しみがあります。

通常のコォーターの裏側にはアメリカ合衆国を象徴する鷲がデザインされているのですが、今から約20年前に「50州クォータープログラム」が始まり、1999年以降、毎年5州（5種類）の図柄が施されたクォーターが順に発行され、今では、五大湖が描かれたミシガン州デザインのものや、自由の女神が描かれたニューヨーク州デザインのものが入ることがあります。10年かけて50州が発行された後は、ワシントンD.C.やグアムなどの6地域も2009年に発行され、さらに2010年以降は、各州の国立公園や史跡の図柄を順に発行するプログラムに移行しました。来年には、ミシガン州の国立湖岸ピクチャードロックス（Pictured Rocks）が描かれたクォーターが登場するそうです。



一方で、1円玉が大切なように、1セント硬貨「ペニー」への想いが込められたストーリーを、ミシガン州のスーパー「マイヤー（Meijer）」で見つけました。「Sandy」と名付けられた子ども向けの馬の遊具は、マイヤーの看板のように1962年の創立当初から店頭で置かれていたそうですが、遊具のモデルとなった他店舗では当時10セント/回だったのに対して、マイヤーの創業者は子どもたちが1ペニーで楽しめるようにすることを決め、以来、お値打ち価格で家族の買い物ができるマイヤーのシンボルとなったそうです。今でも「Sandy」は1ペニーで愛されており、子どもたちが楽しめるようにと、誰かが1ペニーを置いて行くことも少なくないようです。



←各店舗で愛され続けている Sandy。

↓台座に1セント硬貨が置かれていることも！

